

茨城と風船爆弾の関わり

茨城県は風船爆弾と深い関わりがあり、北茨城市大津地区には放球基地が設けられ、多くの女学生が製造に動員されました。

映画『ぼくは風船爆弾』は
茨城県内で撮影！

風船爆弾ゆかりの地をはじめ、県内各地で撮影が行われました。

- 北茨城市などから多くの女学生が製造に動員されました。
- 大津地区にはアメリカ本土へ向けて風船爆弾を放球した基地が設けられていました。

風船爆弾とは？

太平洋戦争末期、日本軍が和紙とコンニャク糊で作った巨大な気球兵器です。

偏西風を利用してアメリカ本土へ到達させる計画で、製造には全国の女学生たちが動員されました。

茨城県では北茨城市などからも多くの女学生が動員され、大津地区には実際に風船爆弾を放球した基地が設けられていました。

風船爆弾の構造（イメージ図）



気球（直径約 10m）
和紙を何層にも貼り合わせ、コンニャク糊で気球を保護

高度計・時限装置など
一定高度を保つために砂袋を投下したり、爆弾を投下する仕組み

爆弾（直径約 15kg）
焼夷弾や時限爆弾を搭載

大きさ：全長約 16m 材質：和紙・コンニャク糊
総重量：約 205kg（爆弾搭載時） 飛行距離：約 9,000km以上

※イメージ図は一般的な資料を基にしています。

風船爆弾はいつ、どれくらい放球されたの？

風船爆弾は太平洋戦争末期、短期間で日本各地から大量に放球されましたが、ほとんど知られることのない兵器でした。

放球時期 1944年11月～1945年4月ごろ
（昭和19年～昭和20年）

放球数 約 9,000 発
全国各地から放球されたとされています。

アメリカへの到達確認 約 300 発
アメリカ本土、カナダ、メキシコ付近まで到達したことが確認されています。

人的被害 1945年5月、アメリカ・オレゴン州で
風船爆弾に触れた6人が犠牲となりました。

約9,000km以上

映画の見どころ

- ✓ 茨城県内で撮影された、平和へのメッセージ作品
- ✓ 茨城の女学生たちが担った、知られざる戦争の記録
- ✓ 北茨城市大津地区の放球基地など、地域の歴史を描く
- ✓ アニメ・ドラマ・ドキュメンタリーの融合による新しい表現
- ✓ 戦争の悲劇から平和の尊さを未来へつなぐ

戦争を知らない世代へ——
この映画が伝える“知られざる史実”を、
ぜひご覧ください。

ゆうばり国際
ファンタスティック映画祭2026特別上映作品

前売券 1,200円 発売予定日／9月25日～（販売所により発売日が異なる場合があります。）
（当日券／一般：1,500円、高校生以下：800円、悠悠映画塾会員は 1,100円）

前売券販売所 ザ・ヒロサワ・シティ会館、ひたちなか市文化会館、茨城映画センター

【前売券予約電話番号】茨城映画センター内：090-2641-3156

（土・日・祝日を除く 午前10:00～午後5:00）

●感染症対策の為、発熱や体調不良時には来場をお控え
いただきますようお願いいたします。またご入場の際等、
適宜手指の消毒にご協力をお願いいたします。

チラシ持参で一般当日券1,300円に割引



※上記二次元コードの
予約フォームより前売券
のご予約が出来ます。